令和２（2020）年度　　旭中学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す生徒像含む）

|  |
| --- |
| ≪基本目標 ≫人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる力を培い、広く世界を見つめながら、進んで社会の発展に貢献できる人間を育成する。  ≪目指す生徒像≫  ・健康でやる気のある生徒（健康な体と気力）  ・自ら学び創造力のある生徒（自主的な学習）  ・心豊かで思いやりのある生徒（豊かな心） |

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

|  |
| --- |
| **学校経営のテーマ「誰もが安心して学び、生き生きと生活する学校」**  伝統のある旭中学校に誇りをもち、学校と家庭・地域が支え合い、校風の継承と新しい時代にあった本校らしい教育の実践を通して、志と自信をもって生きることができ、地域を愛する生徒を育成する。  １　心身ともに健康で学ぶ意欲のある人間を育成するため、「知・徳・体」の調和がとれた教育課程を編成するとともに、秩序があり安心・安全な教育活動の実施に努める。  ２　教職員の情熱と自覚、職務への責任感、協調性を高めることにより信頼される学校づくりの推進に努めるとともに、職務環境の適正化を進め、勤務意欲の向上を図る。  ３　学校と家庭・地域との連携・協力を深め、積極的な情報発信と相互交流を大切にし、学校マネジメントシステムに係るＰＤＣＡサイクルを生かして、地域とともにある学校づくりを展開する。 |

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

|  |
| --- |
| **本校のスローガン 「Challenge！！ 」**  **１　確かな学力を身に付けさせるための学習指導の充実**  （１）学力の基盤となる基本的な学習態度と学習規律を身に付けさせる指導を徹底する。　**＜B１＞**  （２）学習内容の基礎・基本の定着を図る指導と思考力・判断力・表現力等を育てる指導を展開する。  （３）主体的な学びや学習への達成感、課題解決を重視した授業展開の工夫・改善を図る。  （４）○総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、自己の生き方を見つめる学習活動を充実する。  （５）○家庭における学習習慣の確立と適切な学習支援に努め、学習内容の定着を確実にする。**＜B１＞**  **２　豊かな人間性と社会性を育てる教育の推進**  （１）○教職員と生徒の好ましい信頼関係を構築し、生徒のよさを認め励ます指導と共感的な人間関係を通して、一人一人の思いやりや協調性など豊かな人間性を育成する。**＜B２＞**  （２）自己存在感・有用感がもてる学年・学級経営を実践し、集団生活の向上に寄与する態度を育てる。  （３）道徳や特別活動、部活動等の充実を図り、自律的かつ自主的・自治的に学校生活に取り組む態度を育成する。  （４）○正しい判断力と意欲を育てる指導に努め、基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成、対人関係能力の育成を図る。**＜B４＞**  （５）○学校と家庭・地域との適切な連携・協力のもと、豊かな心や感性を培う体験的な活動を展開する。**＜B３＞**  **３　健やかな心身を育む教育の充実**  （１）健康的な生活習慣を確立し、自ら進んで健康の増進に取り組む態度を育成する。  （２）○心身ともにたくましく、気力があり、何事にも粘り強く取り組む態度を育成する。  （３）栄養バランスのよい食生活により活力ある生活を送るため、家庭との連携を図った食育の充実を図る。  **４　新たな教育課題等への対応と業務の適正化**  （１）○特別支援教育への理解と共通実践を推進し、インクルーシブ教育への適切な対応を行う。**＜B２＞**  （２）不登校の未然防止と個々の状況を踏まえた対応の充実を図るため、組織的な指導支援と家庭及び関係機関等との連携協力を推進する。  （３）○小中学校教職員の相互理解と連携・協力を深め、小中一貫教育・地域学校園の取組の充実を図り、旭地域学校園教育ビジョン「地域に愛される旭っ子」の具現化を目指す。  （４）校内美化・緑化やよりよい掲示環境、ＩＣＴ機器の活用、学校図書館の充実などを通して、心豊かで主体  的な態度を育む教育環境の充実に努める。  （５）○新学習指導要領を見据え、各教科等の授業研究を深め、指導力の向上に努める。  （６）会議の精選、効率化等を通して校内業務の適正化を図るとともに、時間を意識した働き方を推進する。 |

「地域に愛される旭っ子」

　地域社会の一員としての役割や責任を自覚し，家族や友人，地域の人々への感謝や思いやりの気持ちをもって接するとともに，元気にあいさつし，ルールやマナーを守るなどの社会性を身に付け，進んで身の回りの人々や地域のために奉仕的に行動できる子ども

４　教育課程編成の方針

|  |
| --- |
| ・「知・徳・体」の調和がとれた教育課程の編成  ・新学習指導要領の完全実施に基づく確実な教育課程の実施  ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かう授業の実施  ・育成すべき3つの資質能力（①実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能　②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等　③学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力等）を明確にした教育活動の展開 |

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

|  |
| --- |
| 【学校運営】  ○教職員の指導力向上と勤務意欲の高揚及び地域との連携推進による学校教育の充実  【学習指導】  ○自らの力で生きぬく生徒の育成をめざす指導の工夫－基礎・基本の定着と学習習慣の確立－  【児童生徒指導】  ○一人一人の生徒に寄り添い、基本的生活習慣の定着と人として大切な心を育てる  【健康（体力・保健・食・安全）】  ○自己の健康・体力の向上をめざし、主体的によりよい生活習慣の確立と運動に取り組む生徒の育成 |

６　自己評価（評価項目のＡは市共通、Ｂは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、Ａ拡充　Ｂ継続　Ｃ縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

※評価中の**青字**は対象の数値指標を達成したもの、前年度比プラスとなった値

※評価中の**赤字**は対象の数値指標を達成できなかったもの、及び、前年比マイナスとなった値

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評　価 |
| 目  指  す  生  徒  の  姿 | Ａ１　生徒は、進んで学習に取り組んでいる。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85% | 1. 学習課題と考えるポイントを明確にした授業を通して、学びに向かう力（自らが学びたいと思い、学び続ける力）を育む。 2. 自主学習ノートを通して、自ら課題を考えて取り組む態度を育成する。 | Ａ | 【達成状況・成果】  ・教職員の肯定的回答 95.0 % 5.3  ・保護者の肯定的回答 90.1% 2.0  **・生徒の肯定的回答 89.5% 6.4**  ①　５科のリレー学習という教材を使った全校体制の取組（旭っ子タイム２年目）により、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られつつある。  ②〇自主学習ノートの取組（４年目）を通して、家庭学習の習慣化を図り、進んで学習に取り組む態度を育てつつある。  【次年度の課題】  ペーパーからデジタルへ移行する中で、タブレットを活用した学習方法を工夫し、進んで学習に取り組む態度を育成する。 |
| Ａ２　生徒は、思いやりの心をもっている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85%  教職員の肯定的回答85% | 1. 生徒一人ひとりが学級の構成員として、どんな立場の友人にも声かけや手助けをする実践力を養う。   ②　道徳の授業等を通していじめ問題について真剣に考え、いじめをなくす取り組みを心がけている。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 90.0% 10.5**  ・保護者の肯定的回答 89.1% 3.9  ・地域住民の肯定的回答 100% 4.0  **・生徒の肯定的回答 90.4% 4.8**  ①　一人ひとりに係等の役割があり、生徒が責任をもち、協力し合いながら活動することができた。  ②　道徳科のいじめの内容について、各学年とも時期を合わせ、指導することができた。今後も継続したい。  【次年度の課題】  教科書が新しくなるので、題材の指導の時期を工夫し、人との関わりやいじめの内容項目の指導に重点をおいて取り組む。 |
| Ａ３　生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答90%  教職員の肯定的回答90% | 1. 教職員が生徒の模範となるようきまりやマナーを守ることを率先垂範することにより、教育活動全般においてきまりを守る姿勢を育てる。   ②　交通安全教室等の取組により命の重さ、ルール・マナーを守ることの重要さを認識させたうえで行動する態度を育成する。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 87.5% -4.8**  ・保護者の肯定的回答 93.2% 1.0  ・地域住民の肯定的回答 100% 3.8  **・生徒の肯定的回答 91.3% 5.2**  ①〇教員側が模範となることを心掛けるとともに生徒に呼びかけることで、時間やマナーを守る姿勢が身に付いてきている。  ②　登校指導(PTSCあいさつ運動)は実施できなかったが、下校指導を継続的に行う事で、生徒の交通マナーは改善してきている。  【次年度の課題】  ・教員側から生徒の模範となる行動を心掛けることを、学校全体で継続していく。  ・生徒同士がお互いに呼びかけ合っていけるような姿勢を育てられるようにする。 |
| Ａ４　生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答90%  教職員の肯定的回答90% | ①　あいさつ運動を継続し、あいさつの意義を生徒に伝えることを通して、校内で会う友人、先輩後輩、先生、来校者など、相手に応じたあいさつができるようにする。  ②　授業や給食時等において、姿勢を整えはっきりと声に出してあいさつをする指導を行うことを通してあいさつの習慣化を図る。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 67.3% -4.3**  ・保護者の肯定的回答 87.5% -0.4  ・地域住民の肯定的回答 100% 3.8  **・生徒の肯定的回答 92.6% 3.5**  ①　あいさつ運動を実施できなかったが、教員から挨拶することで、後半は改善された。  ②　声の大きさ等の制限はあったが、授業や給食時のあいさつ指導を継続することで、コロナ渦に対応したあいさつができた。  【次年度の課題】  ・あいさつ運動を実施し、あいさつの意義について引き続き生徒に伝えていく。  ・挨拶をする場面で、所作もふくめて指導し、さらに、部活動でも指導を行う。 |
| Ａ５　生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85%  教職員の肯定的回答85% | ①　定期テスト毎に学習計画と反省を書かせ、自分の目標と到達度を視覚化することを通して、粘り強く取り組む態度を育てる。  ②　生徒が自分の進路や将来について前向きな目標を立てられるように、適切な進路指導を行うとともに、努力を継続できるように支援をする。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 90.0% 7.9**  ・保護者の肯定的回答 80.5% 0.3  **・生徒の肯定的回答 83.4%** **2.4**  ①○学習計画と反省を書かせることで、自分の課題が明確になり、生徒たちが、高い目標をもってテストに臨む姿が見られた。  ②○教育相談や学級活動の時間を利用し、生徒が自分自身を見つめなおすなどの進路学習によって、前向きな目標を立てることができた。  【次年度の課題】  ・学習計画表作成を引き続き実施し、更に計画表の様式の工夫を加えながら、生徒たちの目標と達成度の視覚化を図っていく。  ・生徒たちが目標をもって生活できるように、あらゆる場面を通して、生徒の意見を大切にしながら、進路指導の更なる充実を図っていく。 |
| Ａ６　生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85% | 1. 定期健康診断を実施し、結果を通知することで、自身の健康に関心を待たせる。 2. 避難訓練を実施し、自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。 | Ａ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 90.0% 0.3  ・保護者の肯定的回答 94.8% 5.7  ・地域住民の肯定的回答 91.7% 0.0  **・生徒の肯定的回答 94.8% 2.7**  ①　コロナ禍ということもあり例年以上に自己の健康に気を付けて過ごせたため、感染症の集団感染を起こさず生活できた。  ②　コロナ禍に対応した訓練を行い、三密を回避した訓練を通して、感染防止と命を守り抜くための両立した行動力を育むことができた。  【次年度の課題】  ・健康維持のための基本的生活習慣の見直しと、衛生活動を継続する。  ・避難訓練時の職員行動の徹底のための行動細案の作成・実行・共通理解を図る。  ・避難経路を再確認し、密を回避した経路の再構成を行う。 |
| Ａ７　生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85%  教職員の肯定的回答85% | 1. 行事を通して、社会の一員としての自覚と課題をもち、基礎的・汎用的能力を育む。 2. 道徳教育、キャリア教育を通して、将来について考え目標をもって努力する力を身に付けさせる。 | Ａ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 90.0% 7.9**  ・保護者の肯定的回答 80.5% 0.3  **・生徒の肯定的回答 83.4% 2.4**   1. 〇キャリア教育アンケート調査を実施し、基礎的・汎用的能力の実態把握ができた。 2. 〇キャリアパスポートを実施するとともに、キャリア教育の視点で教育活動を見直し実施することができた。   【次年度の課題】  ・基礎的・汎用的能力の課題解決のために、全教職員で課題を共通理解するとともに、各種年間指導計画へキャリア教育の視点（基礎的・汎用的能力を育む場面）を位置づけ、実践していく。  ・将来について考え目標をもって努力することの大切さを道徳教育や特別活動を通して学ぶ機会を増やすとともに、体験学習やキャリア教育に関する講話の機会を増やす。 |
| Ａ８　生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答80% | 1. 必要な情報や概要・要点を聞き取ったり、読み取ったりさせる。 2. 関心のある事柄や日常的・社会的な話題について、やり取りさせたり、発表させたり、書かせたりする。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 100% 10.3  **・生徒の肯定的回答 83.9% -0.1**  ①　音声や文字を用いた活動を通して、必要な情報や概要・要点を理解することができた。  ②　様々な話題について、音声や文字を用いた活動を通して表現することできた。  【次年度の課題】  やり取りや発表活動の充実のために、生徒一人ひとりが題材を選び、それについての情報を自分で収集する場面を設定する。さらに、教師が適切な支援をすることで、生徒が英語でのやり取りに対して苦手意識を克服し、自信を付けるようにする。 |
| Ａ９　生徒は、宇都宮の良さを知っている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答80% | 1. 総合的な学習の時間や地域ボランティアに参加することによって宇都宮の良さを多く体験できるように工夫する。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 47.5% -16.6  ・保護者の肯定的回答 67.3% 0.3  **・生徒の肯定的回答 75.1% -1.5**  ①　今年度はコロナ禍の影響で地域ボランティアへの参加ができず、地域や宇都宮の良さを知る機会を逸してしまった。1学年では宇都宮発祥といわれる百人一首の大会を予定している。  　【次年度の課題】  次年度は総合的な学習の「宇都宮学」に関する教材開発や地域ボランティアの参加等から宇都宮や地域の良さに気付かせていく活動に重点を置いて取り組む。 |
| Ａ10　生徒は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。  【数値指標】  生徒の肯定的回答70% | 1. ＰＣ等を用いて調べ学習を行い、課題をまとめ、発表することで理解を深める。   ②　年鑑や統計など、様々な参考図書の調べ方を理解し、目的に応じた適切な参考図書を選び、有効に活用させる。 | Ａ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 90.0% 2.8  ・保護者の肯定的回答 69.0% 3.3  **・生徒の肯定的回答 81.4% 13.0**  ①　課題をまとめ発表するなど理解が深まった。  ②　総合的な学習の時間などでの、図書を活用する機会を利用し、生徒は適切な参考図書を選び、プリントにまとめるなど、活用することができた。  【次年度の課題】  生徒用タブレット型ノートＰＣの有効活用。ＰＣと共に活用するよう、図書の生かし方を工夫する。 |
| Ａ11　生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85%  地域住民の肯定的回答85% | 1. 学校行事やプランターづくりの活動に高齢者を招待し、触れ合うことで、高齢者を身近に思える機会を作る。   ②　各教科や道徳科の授業で高齢者を扱う題材を通して、高齢者に対する理解を深め、いたわりの気持ちを醸成する。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 90.0% 10.5  ・保護者の肯定的回答 89.1% 3.9  **・地域住民の肯定的回答 100% 4.0**  **・生徒の肯定的回答 90.4% 4.8**  ①　様々な制限があり、高齢者を招待することはできなかった。緑の少年団への入団、プランターづくり等の活動を通し、感謝やいたわりの心を育むことができた。  ②　道徳教育での高齢者を扱う題材を通して、高齢者に対するいたわりの気持ちを醸成した。  【次年度の課題】  今年度の取り組みを継続するとともに、状況に応じながら、生徒が高齢者と触れ合う機会を作っていく。 |
| Ａ12　生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答80% | 1. 各教科の学習や総合的な学習の時間の中で、環境に関する題材を通して、自己を取り巻く環境について考えることで、「持続可能な社会」に対する理解を深める。   ②　地域の清掃活動だけでなく、校内でのごみの分別やペットボトルキャップの回収を推進し、環境を大切にする心を養う。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 50.0% 3.8  **・生徒の肯定的回答 72.5% 2.0**  ①　各教科において持続可能な社会についての学習を実施したことで、生徒の持続可能な社会に対する理解は深まった。  ②　地域のボランティア活動は実施できなかったが、委員会活動を通して、環境を大切にする心を養うことができた。  【次年度の課題】  教員側が「持続可能な社会」、「ＳＤＧｓ」についての理解を深めることで、各教科の学習内容の中で持続可能な社会と関連させやすい部分を活用し、より生徒の持続可能な社会への理解を深めていけるようにする。 |
| Ｂ１　教職員は、生徒が自主的な学習を進めることができるように、学習の進め方を指導している。  【数値指標】  教職員の肯定的回答85%  保護者の肯定的回答80% | 1. 自主学習の仕方や定期テストに向けた具体的な対策を各教科の授業や学年集会等で説明し、学習の手引きを活用して効果的な学習の仕方を指導する。 2. 自主学習ノートの優れた取組を紹介して効果的な活用を促し、共に学ぼうとする環境を整える。（学年内で紹介したり、上級生の取組を下級生に紹介したりする。） | Ａ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 94.9% -2.5**  **・保護者の肯定的回答 83.5% 8.4**  ・生徒の肯定的回答 93.0% 4.7  ①　学習の手引きを活用したことで、生徒の自主的な学習への取組を促すことができた。  ②　自主学習ノートの優れた取組を紹介し、学級担任のアドバイスも加えて、個別指導の充実を目指したが、学級や学年により取組に差がみられた。  【次年度の課題】  旭っ子タイムに替えて、火曜日と木曜日の朝の読書の時間（10分）にタブレットを活用した学習活動を取り入れ、家庭での活用を見据えて、生徒が自主的に取り組めるよう、学習の進め方を指導する。 |
| 目  指  す  学  校  の  姿 | Ａ13　教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。  【数値指標】  教職員の肯定的回答80% | 1. 教育相談部会、特別支援部会、特別支援教育校内支援委員会において情報交換をしっかり行うと共に、報･連･相を確実に行いながら素早く対応する。 | Ａ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 92.5% 7.9**  ①〇各部会や学年内での情報交換や適切な連携で素早い対応ができた。  【次年度の課題】  　部会で名前があがった生徒だけでなく、普段の生活や学習で気になった生徒に関しても共通理解を図り、全生徒が過ごしやすい学校になるように努める。 |
| Ａ14　教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。  【数値指標】  生徒の肯定的回答90%  教職員の肯定的回答95%  保護者の肯定的回答 90% | 1. 道徳などの心の教育を重視し、いじめの未然防止の取り組みの充実を図るとともに、HPや各種便りを通して、取り組みを保護者や地域社会に積極的に発信する。   ②　教育相談やQUなどを十分に活用し、いじめの早期発見・早期対応を行うとともに、保護者との信頼関係を築いていけるように、適切な対応を心掛ける。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 100% 5.1**  **・保護者の肯定的回答 81.3%** **10.6**  ・地域住民の肯定的回答 100% 4.0  **・生徒の肯定的回答 94.6% 1.6**  ①　いじめゼロ強調月間にはいじめを題材にした道徳の授業を行い、生徒の授業の感想や、いじめ根絶集会の様子などを生徒指導便りで発信した。  ②　いじめ調査アンケートの定期的な実施や、スタンダードダイアリーの活用などにより、いじめの早期発見に努めた。問題等が起きた時には、情報を共有し、組織的に対応することができた。  【次年度の課題】  　保護者の肯定的割合が目標値には達していないが、昨年度と比べ大きく上昇しているので、今年度の取組を継続していく。 |
| Ａ15　教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。  【数値指標】  保護者の肯定的回答80% | 1. 教育相談や三者懇談等を有効に活用しながら 、家庭との連携を密にとり、問題があれば早期対応、早期解決をめざす。 2. レインボー教室の活用を通して、学校とのつながりを維持し、不登校を生まない環境作りを推進する。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 97.5% 15.4  **・保護者の肯定的回答 90.3% 10.2**  ・生徒の肯定的回答 91.5% 1.5  ①　教育相談や日々の見取りから、学年や教育相談部会で共通理解を図り早期対応できた。また、欠席状況共有シートから生徒の状況を把握し、今後の見通しや支援方法を考え、生徒や保護者の支援につなげることができた。  ②　レインボー教室を活用することで、学級復帰を目指しての支援ができた。  【次年度の課題】  生徒理解に努め、安心して生活できる学級経営を目指した研修や啓発を行う。不登校についてはチームで生徒や担任を支えていく。 |
| Ａ16　教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。  【数値指標】  教職員の肯定的回答80% | 1. 日本語の習得が不十分な外国人生徒の日本語の指導を計画的に行い、今年度の目標を設定させ、個人内評価を工夫する。 2. 日本語の指導講師やボランティアの方、また学級担任や学年主任と密に連絡を取り、継続的に学習に取り組めるよう支援していく。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 92.5% 7.9**  ①　個別の指導計画の策定、目標の設定を行ったことで個に応じた適切な指導ができた。  ②　外部指導者および関係職員との連携を図ったことで効果的な学習支援が行えた。  【次年度の課題】  学級担任や教科担任から教室での様子を聞き取り、外部指導者につなげ、ニーズに応じた指導の工夫を図る。 |
| Ａ17　学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85%  保護者の肯定的回答90% | 1. 学校行事や学級活動において、生徒の活躍の場を積極的に取り入れ、認め励まし、自己有用感を育てる。   ②　生徒の実態に即した指導計画を立て実践し、充実した学校生活がおくれるように支援していく。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 90.0% 0.3  **・保護者の肯定的回答 93.3% 1.9**  ・地域住民の肯定的回答 100% 0.0  **・生徒の肯定的回答 86.3% 3.2**  ①　可能な限りの工夫をし、行事を実施し生徒の活躍の場を確保することで、生徒の自己有用感を高められたため、生徒の肯定的回答の向上につながった。  ②　制限の状況に合わせて、計画を変更しながらも実施し、生徒の充実した学校生活につなげた。  【次年度の課題】  　感染症拡大に伴う制限の状況を踏まえながら、生徒の実態に合わせ、内容の充実をはかり、生徒の自己有用感を高め、充実した学校生活を送れるよう支援していく。 |
| Ａ18　教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85% | 1. 学習課題の提示、習得・活用・探究の時間を確保し、生徒による振り返りと教師によるまとめを明確にした授業を展開する。 2. 知識・技能を活用して考えさせたり、自分の考えを表現させたりして、思考力・判断力・表現力等を育成する。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 97.5% 0.1  ・保護者の肯定的回答 86.6% 13.5  **・生徒の肯定的回答 89.7% 3.9**  ①〇教員が互いに授業を見て授業改善を図り、きめ細かな指導へとつながった。  ②〇習得・活用・探求する時間を確保して、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成へとつながった。  【次年度の課題】  新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化を図り、学習課題の振り返りや思考力・判断力・表現力の育成を図る活動を通して、主体的に学習に取り組む態度（調整と粘り強さ）を育む。 |
| Ａ19　学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。  【数値指標】  教職員の肯定的回答90% | 1. 目指す生徒像、学校経営のテーマ、スローガンを全職員が意識し、全教育活動でそれが生かせるように工夫しながら業務を進めるようにする。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 87.5% 15.7**  ①　昨年度に比べ、学年間の枠を超え、連携して行事等に取り組むことができた。スローガンを全職員が意識していたとはいえない点は反省点といえる。  【次年度の課題】スローガンの掲示を増やすことで、実施前にや全職員のスローガンを意識した教育活動を実践する。 |
| Ａ20　学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。  【数値指標】  教職員肯定的回答80% | 1. チーム学校として、ＳＣ、ＳＳＷ、かがやきルーム指導員等と連携、協力して役割分担を図り、効果的な手立てを講じる。 2. 部活動地域指導者を有効活用した部活動の充実を図る中で、教員の業務縮減を行う。 3. パソコンで情報共有を図ることで教員の業務縮減を行う。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 77.5%** **13.4**  ①　ＳＣ、ＳＳＷ、かがやきルーム指導員、ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾄｽﾀｯﾌと連携して効果的な手立てを講じることができた。ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾄｽﾀｯﾌの活用は職員の大きな業務縮減につながった。  ②　野球部、陸上競技部で地域指導者を活用した指導を行った。今年度はコロナの影響で昨年に比べ少ない回数での指導であったが、業務縮減となった。  ③　ミライムの活用で、職員間の連絡や回覧、アンケート等、仕事の効率化を行うことができた。  【次年度の課題】  職員の勤務時間の意識改革はまだ十分とは言えない。リフレッシュデー等からひとりひとりが勤務への意識を高めていく必要がある。 |
| Ａ21　学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。  【数値指標】  教職員肯定的回答80% | 1. 地域学校園あいさつ運動の充実や行事等における小中の連携、中学生によるボランティア活動の充実を図る。 2. 各学校の課題を明らかにして、地域学校園各部会の取組を充実させる。(心の教育部会・特別支援教育部会・学力向上部会・健康安全部会・連携部会） | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 80.0%** **-9.7**  ・保護者の肯定的回答 84.9% -2.0  ・地域住民の肯定的回答 100% 0.0  ・生徒の肯定的回答 65.0% -7.2  ①〇小中一貫のあいさつ運動や乗り入れ授業などコロナ禍の影響で実施回数を縮減して実施した。  ②　地域学校園各部会の集まりは代表のみの会議となり、学校園の先生方全員が関係する教科部会のようなものは実施されなかった。  　【次年度の課題】  教科園内の連携を高めるための組織構成の工夫（副校長を組織長とした学校園の構築）。全職員で取り組むという意識の改善とより効率的な組織の構築を図る。 |
| Ａ22　学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。  【数値指標】  教職員肯定的回答80% | 1. 地域コーディネーターとの連携により、地域協議会との協力体制を構築し、学校支援の取組を推進する。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 92.5% -7.5**  ・保護者の肯定的回答 87.9% 1.5  ・地域住民の肯定的回答 100% 0.0  ・生徒の肯定的回答 75.1% -6.6  ①　今年度はコロナ禍の関係で花壇の整備や各教室での読み聞かせができず、昨年に比べ、活動の場がなかった。  【次年度の課題】  　地域コーディネーターとの連携を高め、  　読み聞かせ等の教育活動を進めていく。 |
| Ａ23　学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。  【数値指標】  保護者の肯定的回答80% | 1. 保護者会、三者懇談等を活用し、保護者との連携を図る。 2. ボランティア活動を通してより良い生徒の育成を行う。また、 PTA との連携を深め、学校運営の充実を図る。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 92.5% -7.5  **・保護者の肯定的回答 87.9% 1.5**  ・地域住民の肯定的回答 100% 0.0  ・生徒の肯定的回答 75.1% -6.6  ①　コロナ禍で制限される中、工夫を凝らしながら、学年行事や保護者会、三者懇談を行い、生徒の様子を保護者に伝えることができた。  ②　コロナ禍のためボランティア活動ができなかった。  　【次年度の課題】  今年度の経験を活かし、コロナ禍であっても保護者との連携を高めていけるような取組を工夫して実施する。 |
| Ａ24　学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。  【数値指標】  保護者の肯定的回答85%  地域住民の肯定的回答85% | 1. 毎月１回、児童生徒等が使用する校地、運動場、教室、特別教室、廊下、昇降口、ベランダ、階段、便所、手洗い場、給食室、屋上などについて、計画的に、組織的に安全点検を実施する。 2. 学校行事の前後や、災害発生時等、必要があるときは臨時に安全点検を実施する。 | A | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 100% 0.0  **・保護者の肯定的回答 92.3% 1.0**  **・地域住民の肯定的回答 100% 0.0**  ①　定期的・計画的・組織的に安全点検を実施することで安全に生活できた。  ②　臨時に安全点検を実施し、危険個所の発見に努めることができた。  【次年度の課題】  日常的に問題意識をもって安全に配慮した生活を心がける。 |
| Ａ25　学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。  【数値指標】  生徒の肯定的回答70% | 1. 授業中の視覚効果を高めるため、PCや実物影機等を整備するとともに教員研修を行い有効に活用できるようにする。 2. 司書が授業に参加し、参考図書のアドバイスをしたり、前年度の調べ学習等で不足している本の補充をしたりするなど、必要な本が探しやすいよう工夫する。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 90.0% 2.8  ・保護者の肯定的回答 69.0% 3.3  **・生徒の肯定的回答 81.4% 13.0**  ①　視覚教材を有効に活用することができた。  ②　司書が参考図書を補充し、テーマごとにまとめ、生徒が利用しやすいよう用意した。総合的な学習の時間など、授業で有効活用できた。  【次年度の課題】  機器の使用環境をより充実させる。新しい教科書に合わせた資料の充実を図る。 |
| Ｂ２　教職員は、生徒同士が互いに認め合える環境作りをしている。  【数値指標】  保護者の肯定的回答85%  生徒の肯定的回答90% | 1. 行事等の振り返りワークシートの中に他の生徒の取組を認める項目を設ける等の工夫をするとともに、各種便り、HP等で学校の取組を保護者に積極的に発信していく。 2. 道徳の授業をはじめとする学習活動の中にグループ活動を取り入れるなど互いの意見を交わす場を設定し、他者の考えに触れさせ、その考えを共有し、尊重し合える場を設定する。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 92.3% 2.8  **・保護者の肯定的回答 84.7% 9.9**  **・生徒の肯定的回答 91.2% 4.5**  ①　シトラスリボンや、放送集会での　“コロナ禍でも偏見・差別をしない”呼びかけ、３年生の黄ブナを送ったエピソードなど、他者を思いやる多角的で様々な取組が効果的だった。  ②　道徳をはじめあらゆる教育活動で他者の考えを理解し、互いに尊重しあえる環境づくりができた。  【次年度の課題】  引き続き、これら多角的で多様な他者を思いやる取組を、教員で共通の目的意識を持って学校全体で展開する。 |
| 本校の特色・課題  等 | Ｂ３　学校や地域は、生徒が自主的に地域の行事に参加し、活動することを支援している。  【数値指標】  生徒の肯定的回答85%  地域住民の肯定的回答80% | 1. 年間を通して地域の行事に自主的に参加する機会を設定し、地域と共に支援することで、地域貢献の意識を高める。 2. 地域行事への参加の様子を収めた写真などを校内に掲示したり、学校HPに掲載したりすることで、生徒の達成感を高める。 | Ｂ | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 89.7% -10.3  ・保護者の肯定的回答 85.0% -8.5  **・地域住民の肯定的回答 100%** 0.0  **・生徒の肯定的回答 85.7%** **-7.5**  ①〇コロナ禍のため地域の行事への参加ができなかった  ②　校内に学校生活の写真を掲示することはできたが、地域の行事への参加に関するものは掲示できなかった。  【次年度の課題】  　コロナ禍の中で、生徒の安全をいちばんに考慮しながら、地域ボランティアや宮まつり後の奉仕作業、親子奉仕活動の計画や実施の方向性について考えていく。 |
| Ｂ４　学校や地域は、定期的に登校指導や下校指導を行い、登下校時のマナー向上や生徒の自発的なあいさつの浸透を図り、「地域に愛される旭っ子」の育成に取り組んでいる。  【数値指標】  生徒の肯定的回答%85  教職員肯定的回答90%  地域住民の肯定的回答90%  保護者の肯定的回答85% | 1. 保護者・教職員・生徒・地域が一体となって行うPTSCあいさつ運動を計画的に行い、教職員で連携を取りながら下校指導を行う。 2. 地域未来会義を活用して、「地域に愛される旭っ子」の実現に必要なことについて、学校、地域と生徒の意見を共有する。 | Ｂ | 【達成状況】  **・教職員の肯定的回答 89.5 % -7.9**  **・保護者の肯定的回答 86.5% 1.3**  **・地域住民の肯定的回答 100% 0.0**  **・生徒の肯定的回答 86.6%** 今年度から  ①　コロナ対応の為、 保護者・教職員・生徒・地域が一体となり活動することは控えざるを得なかった。  ②〇地域未来会議では地域の方からの意見を共有することができた。  【次年度の課題】  地域未来会議では地域の方の意見を真摯に受け止める生徒が多くみられており、 より意見の共有ができるよう意見の掲示等を行い、 共通理解を図ると共に学校全体で取り組んでいく。 |
| Ｂ５　学校や家庭は、生徒が主体的によりよい生活習慣を確立し、心身ともにたくましく、規則正しい生活習慣を身につけられるよう支援している。  【数値目標】  保護者の肯定的回答85%  生徒の肯定的回答85% | 1. 学校行事の中に達成感や充実感が得られるような課題や活動を組み込んでいく。 2. 「マイ・ライフ・チェック」を７月・１月に実施し、実態の把握と生徒への意識付けを行い、規則正しい生活の習慣化を図るとともに、指導に活用する。 |  | 【達成状況】  ・教職員の肯定的回答 94.9%　-5.1  **・保護者の肯定的回答 90.2% -0.1**  **・生徒の肯定的回答 92.8% -0.2**  ①　活動の制限が多い中、テレビ放送などを活用し、達成感や充実感が得られるよう工夫し、行事を実施した。  ②　1回実施し、実態を把握することで個に応じた指導に活用した  　【次年度の課題】  ・メリハリのある生活が送れるよう行事を取り入れ、充実した生活が送れるよう支援していく  ・「マイ・ライフ・チェック」を２回実施し日常的に生活指導することで、生徒の意識付けを図るとともに行動の変容を確認する |

７〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

**○全体アンケート集計結果の総評**（資料１参照）

昨年度と比較すると、肯定的回答割合が全７７項目中５８項目（75.3％）で増加しており、取組の成果が表れている。コロナ禍において、縮小を余儀なくされた校外の方々との連携に係るA21（小中一貫の取組）、B3（生徒の地域行事への参加）の項目に、肯定的回答割合の減少が見られた。対して、A2、A11（思いやりの心）、A6（健康安全への配慮）、A14（いじめへの対応）、B2（認め合える環境づくり）等の生徒の心のケアやいじめ対策、健康・安心に係る項目に増加が見られた。

**○　アンケート集計結果の概要**（表の単位：パーセント）

(1)　全体（資料１参照）

○　肯定的回答割合が教職員は２５項目中１６項目、保護者は２０項目中１６項目、地域住民は

１１項目中１１項目、生徒は２１項目中１５項目それぞれ増加している。

○　肯定的回答割合が全７７項目中５８項目（75.3％）で増加している。

○　以下の項目は、肯定的回答割合が５ポイント以上（★は、10ポイント以上）増加している。

　　　教職員　　　A1（学習への取組）（+5.3P）

○★A2（思いやりの心）（+10.5P）

　　A5　A7（夢や目標、社会貢献）（+7.9P）

★A8（英語の活用）（+10.3P）

A13、A16（特別支援、外国人生徒への支援）（+7.9P）

○　A14（いじめ対策）（+5.1P）

○★A15（認め励まし合う学級経営）（+15.4P）

★A19（職員間の協力）（+15.7P）

★A20（業務の効率化）（+13.4P）

保護者　　　A6（生徒の健康や安全）（+5.7P）

　　　　○★A14（いじめ対策）（+10.6P）

★A15（励まし合う学級経営）（+10.2P）

★A18（わかりやすい授業）（+13.5P）

○　B1（自主学習の充実）（+8.4P）

○　B2（互いに認め合う環境づくり）（+9.9P）

生徒　　　　A1（生徒の授業への取組）（+6.4P）

　　　　○　A3（きまり、マナーを守った生活）（+5.2P）

　　　　　★A10　A25（ICT、図書の活用）（+13.0P）

**○　全体の特徴**（資料１参照）

(1) すべての対象で９０％を超えた評価項目　　　　　　　　　　※ 網かけ：90％を超えている数値

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 年度 | 教職員　比較 | | 保護者　比較 | | 地域住民比較 | | 生徒比較 | |
| A6　○生徒は健康や安全に気を付けて生活している。 | Ｒ２ | 90.0 | 0.3 | 94.8 | 5.7 | 91.7 | 0.0 | 94.8 | 2.7 |
| R１ | 89.7 | 89.1 | 91.7 | 92.1 |

A6（健康・安全への取組）では、対象となった教職員、保護者、地域住民、生徒の肯定的回答割合は全て９０％を超えており、中でも保護者の割合が昨年度と比べて5.7ポイント上回っている。これは、コロナ禍の中校内の環境整備と手洗い、うがい、マスクの着用などに対して各係からの広報や指導の徹底がなされたため、と考える。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 年度 | 教職員　比較 | | 保護者　比較 | | 地域住民比較 | | 生徒比較 | |
| A15　○教職員は、不登校を生まないよう、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。 | Ｒ２ | 97.5 | 15.4 | 90.3 | 10.2 | / | / | 91.5 | 1.5 |
| R１ | 82.1 | 80.1 | / | 90.0 |

A15では、対象となった教職員、保護者、地域住民、生徒の肯定的回答割合は全て９０％を超えており、中でも、保護者の割合が昨年度と比べて10.2ポイント上回っている。これは、生徒の変容等を学級担任だけでなく、学年、全体で見守るための体制の整備を行ったことや教育相談活動の充実、家庭との連携を密にする電話連絡、家庭訪問の充実など、家庭と共に生徒を育てようとする学校の姿勢が高く評価されたものと考える。

(2) 肯定的回答割合が顕著に増加した評価項目

※ 網かけ：前年度と比較して2.0P以上増加★は、前年度と比較して10p以上増加

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 年度 | 教職員　比較 | | 保護者　比較 | | 地域住民比較 | | 生徒比較 | |
| No.10　生徒は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。  No.25　学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 | Ｒ２ | 90.0 | 2.8 | 69.0 | 3.3 | / | / | 81.4 | ★  13.0 |
| R１ | 87.2 | 65.7 | / | 68.4 |

A10「ＩＣＴ機器や図書等の活用」、A25「ＩＣＴ機器や図書等の整備」については、対象となった教職員、保護者、生徒の肯定的回答割合は、全て増加した。これは、緊急事態宣言を受け、今年度4月、5月が学校休業となり授業時数の削減が危惧される中、教員のわかりやすい授業展開の工夫の一環としてICTを用いた授業展開が大幅に増えたことが高評価につながったと考えられる。一方で、保護者の肯定的回答割合は69.0％にとどまっていることから、次年度以降は、授業中はもとより、家庭での学習においても1人1台端末を活用できるよう取組を進める必要があると考える。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 年度 | 教職員　比較 | | 保護者　比較 | | 地域住民比較 | | 生徒比較 | |
| A2　○生徒は、思いやりの心をもっている。  A11　生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 | Ｒ２ | 90.0 | ★  10.5 | 89.1 | 3.9 | 100 | 4.0 | 90.4 | 4.8 |
| R１ | 79.5 | 85.2 | 96.0 | 85.6 |
| A14　○教職員は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。 | Ｒ２ | 100 | 5.1 | 81.3 | ★  10.6 | 100 | 4.0 | 94.6 | 1.6 |
| R１ | 94.9 | 70.7 | 96.0 | 93.0 |

A2「思いやりの心」、A11「高齢者への感謝」については、教職員の肯定的回答割合が顕著に増加し、A14「いじめ対策」においては、保護者の肯定的回答割合が顕著に増加した。これは、これまで学校が行ってきた心の教育やいじめ対策に係る継続的な取組に加え、コロナ禍における更なる取組が、評価されたものと考えられることから、引き続き指導を徹底することが大切であると考える。

　(3) 肯定的回答割合が減少した評価項目

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 年度 | 教職員　比較 | | 保護者　比較 | | 地域住民比較 | | 生徒比較 | |
| A12　生徒は、「持続可能な社会」について関心を持っている。 | Ｒ２ | 50.0 | 3.8 | / | / | / | / | 72.5 | 2.0 |
| R１ | 46.2 | / | / | 70.5 |

　　　　A12「持続可能な社会についての関心」については、生徒の肯定的回答割合と教職員の肯定的回答割合に差がみられる。このことから、生徒の興味・関心に対して、教員の「持続可能な社会」についての授業等の取り上げ方が、意図的に展開され、充実するまでには至っていないものと考えられる。新学習指導要領においても、持続可能な社会の創り手となる生徒の育成が求められていることから、今後、授業等で、ＳＤＧｓの趣旨等を踏まえた、生徒の日常生活に関連した身近な内容を取り上げながら、これまでの授業や諸行事等と関連付けて指導するなど、一層の取組の強化を図る必要がある。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 年度 | 教職員　比較 | | 保護者　比較 | | 地域住民比較 | | 生徒比較 | |
| A21　○学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 | Ｒ２ | 80.0 | -9.7 | 89.4 | -1.5 | 100 | 0.0 | 65.0 | -7.2 |
| R１ | 89.7 | 87.9 | 100 | 72.2 |
| A22　○学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。  A23　学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 | Ｒ２ | 92.5 | -7.5 | 87.9 | 1.5 | 100 | 0.0 | 75.1 | -6.6 |
| R１ | 100 | 86.4 | 100 | 81.7 |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　※　前年度と比較して減少した数値

A21「小中一貫教育・地域学校園」及びA22「特色ある教育の展開」、A23「家庭・地域・企業等の連携・協力」については、対象となった教職員、保護者、生徒の肯定的回答割合が減少しており、特に教職員、生徒の割合が大幅に減少した。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、小中一貫教育・地域学校園に係る取組や家庭・地域・企業等との交流が予定どおりに実施できなかったことが原因であると考えられる。現在の状況下においても、GIGAスクールの推進による生徒一人1台のタブレットを活用したオンラインでの実施など、新たな交流の仕組みについて検討し、可能な範囲で取組を行うとともに、再開に向けた準備を着実に進める必要がある。

８　学校関係者評価

|  |
| --- |
| ・地域未来会議を今年度初めて実施できてよかった。  　生徒の積極的な発言や要点をまとめて堂々と発表する姿を大変たくましく感じた。  　今後も継続し、開催の仕方をさらに工夫し、充実を図っていただきたい。  ・コロナ禍の中で、いじめや不登校への取組について、生徒、保護者から十分に評価されたことが素晴らしい。今後も工夫した取り組みを続けてほしい。  ・「宇都宮のよさ」については、宇都宮しか知らない生徒が大部分であるので、他と比較することができないと思う。宇都宮を知り、他と比較する経験を通して、よさや課題に気付かせることが大切である。  次年度以降、宇都宮をしっかりと知ることから始め、そのよさに気付けるよう教えてほしい。 |

９　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

|  |
| --- |
| ・肯定的回答の割合が昨年度以上のものは全体の７割を超え、市の平均以上は約６割であった。  ・特に向上したのは、教職員では「職員全体がチームとなり協力している」、保護者では「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」、地域では「生徒は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」、生徒では「生徒は ICT機器や図書等を学習に活用している」だった。  ・いじめや不登校への取組についても大幅な向上が見られ、委員からは，コロナ対応で大変な中，いじめや不登校などが高評価を得たのは，学校の努力の成果だとのご意見をいただいたので、次年度以降もしっかりと取り組んでいきたい。  ・課題となったものは、「時と場に応じたあいさつをしている」「宇都宮の良さを知っている」などで、コロナ禍で多くの活動が縮小や中止となった「小中一貫教育・地域学校園」「地域行事への参加」などの評価も低下であった。今後は、旭中の良さをさらに伸ばしつつ、あいさつ運動や宇都宮学などを通して、課題解決にじっくり取り組みたい。  ・また、今回初めて生徒に質問した「地域の方から，愛されている，大切にされていると感じる」の肯定的回答の割合は８６％だった。これは旭地域学校園の教育ビジョンに関わる質問であるので、今後、この割合が伸びるように家庭、地域、小学校と連携していきたい。 |